

政策評価シート（平成30年度実績評価）

◎ 政策の基本情報

総合計画 中期 プラン	政策No.	5-2	政策名	持続可能で健全な 財政経営	政策の 目指す姿	財政を健全に維持しています	政策 主管課	財政課	政策主管 課長名	伊藤昌俊
	政策の方針	今後、人口減少による財政規模の縮小が懸念されるとともに、合併による優遇措置が終了することから、より一層健全な財政の維持に向けて取り組む必要があります。 そのために、適正な財政規模への移行と最少の経費で最大の効果を生み出すための財政運営を進めます。また、市税等自主財源の確保に努めるとともに、施設の長寿命化など私有財産の適切な管理を図ります。								

2 成果指標の達成状況

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	区分	H27 (基準年度)	H29	H30	R1	R5	
					目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
経常収支比率	義務的性格の強い経常経費に、一般財源がどの程度充当されているかを見ることにより、財政構造の弾力性を判断する指標。現状より弾力性がある80%台前半を目指します。	地方財政状況調査	%	目標値	87以下	87以下	87以下	87以下	87以下	
					実績値	87.1	87.3	-	-	
実質公債費比率	地方公共団体の財政規模に対する借金返済額の大きさを示す指標。現状より健全な数値を目指します。	地方財政状況調査	%	目標値	11以下	11以下	12以下	11以下	11以下	
					実績値	10.5	9.8	-	-	
				目標値						
				実績値				-		
達成度	[達成状況に関する背景・要因]									
B										

3 政策に対する各施策の達成度

No.	施策名	成果指標名	H27 (基準年度)	H29			H30			R1		前年実績との比較	達成度
			現状値	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	見込み		
1	適正な財政規模への移行												
2	自主財源の確保												
3	市有財産の適正な管理												
4													

4 政策の総合的な評価

評価区分	政策の課題と要因
#N/A	

成果指標達成度	A				
	B				
	C				
	D				
		④	③	②	①

政策に対する施策の達成度

## 5 政策を構成する施策一覧

	施策名	施策の成果指標の達成状況	H29		H30	
1	適正な財政規模への移行					
<p><b>【課題】</b></p> <p>①国では、引き続き、地方の基金残高について、「国の借金が増えている一方、地方の基金残高が増えている」として、地方財政対策の中で地方一般財源の縮減を迫っていることから、今後の基金運営の在り方の検討が必要</p> <p>②第3期中期プラン策定にあわせ、今後見込まれる、または実現の可否について検討中の大型事業(新図書館整備、駅橋上化検討、石鳥谷道の駅再編など)を含む財政計画を作成し、その実現の見通しを検討することが必要</p> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <p>①現在策定中の公共施設マネジメント計画(実施計画)や各種計画のローリングにより、施設管理費及び大型建設事業の必要経費を計り、財源確保策の検討を行う。</p> <p>②第3期中期プランや公共施設マネジメント計画(実施計画)の策定に合わせ、これらと連動した次年度予算要求フレームの早期作成により、安定した財政運営を行う。また、引き続き、交付税算入の高い市債メニューの選択を行う。</p>						
2	自主財源の確保					
<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市税等の滞納には徴収が困難な事案(高額滞納、複数の自治体にわたる滞納)が多く含まれており、滞納整理によりその回収に努めているが、全てに行き届いた滞納整理ができていない。</li> <li>納税者の利便性を図るための納税環境の更なる拡充。</li> <li>ふるさと納税については、一定程度の制度周知が図られている状況と見受けられるが、本市に対して寄付者の目が向けられるよう、仕組みや返礼品などの内容について、随時見直しを行うとともに的確なPRを行っていく必要がある。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>滞納整理を進めるにあたっては、徴収職員が十分な知識とスキルを備えることが必要であることから、各種研修会への参加、課内研修の実施、岩手県地方税特別滞納整理機構への職員派遣により徴収実務能力の向上を図り、徴収困難事案を効果的に滞納整理する。</li> <li>クレジットカードとペイジーによる納付を令和2年度に開始するので、導入後の効果的な運用を検証しつつ、更なる納付環境の整備を検討する。</li> <li>イーハートブ花巻応援券付金については、これまで本市に寄付いただいた寄付者の動向(地域・寄付額・返礼品の種類、時期など)を分析し、新たな返礼品の発掘を行うとともに、寄付の新たな仕組みづくりを検討し、寄付額の増加を目指す。</li> </ul>						
3	市有財産の適正な管理					
<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設マネジメント計画【基本方針編】において遊休財産や余裕スペースの利活用を基本としていることから、市有財産(土地)については、不整形地や高低差のある土地、狭隘な土地など単体では売り難い土地も多数あるが、例えば隣地とのセット販売を試みるなど「売り方」に工夫が必要であり、また、本庁舎については、同計画において行政系施設に位置付け長寿命化による維持を基本としていることから、計画的に改修する必要がある。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設マネジメント計画【実施計画編】は、平成30年度において策定に至らず「素案」の段階にとどまったものの、今後、遊休財産の利活用や長寿命化に向けた計画修繕などを実行あるものとして推進していくため、早期に実施計画編を策定する。また、花巻市まちづくり総合計画中期プランは3年間の計画であるが、より長期的な視点が必要となるハード事業については、公共施設マネジメント計画を基に予算編成などに活用できることから、そのような運用の定着を図る。</li> </ul>						